

第6回札幌市環境審議会生物多様性部会

会 議 録

日 時：2023年3月16日（木）午後2時開会
場 所：Z o o m によるオンライン会議

1. 開 会

○愛甲部会長 これから、第12次札幌市環境審議会生物多様性部会第6回会議を開催したいと思います。

本日は、三つ議事がありまして、目標及び進捗管理と、改定中の生物多様性さっぽろビジョンの骨格案の確認です。もちろん、目標の中身は骨格案の中にも反映されていますので、それをご覧いただきながら、改定案についてご意見をいただいて、最後に今後の進め方やスケジュールについて確認するというようお願いしたいと思っております。

それでは、会議成立の報告を濱田課長からお願いします。

○事務局（濱田環境共生担当課長） 皆様、本日はどうぞよろしくお願いいいたします。

まず、委員の出席状況についてですが、本日は7名全員が出席でして、札幌市環境審議会規則第4条第3項により、総委員数の過半数に達しておりますので、この会議が成立していることをご報告いたします。

続きまして、連絡事項です。

本日もオンライン形式での開催とさせていただきました。発言時以外は常時マイクをオフにさせていただきまして、ご発言の際には挙手などで合図をお願いいたします。また、発言する際は、議事録作成の都合上、お手数ですが、お名前を名乗っていただいてからご発言いただきますようお願いいたします。

なお、傍聴希望者の方々にユーチューブにてライブ配信を行っておりますので、ご了承ください。

続きまして、資料の確認です。

事前にメールで送付しております資料ですが、次第、資料1、資料2、資料3、資料4になります。説明の際に画面でも共有いたしますので、よろしくお願いいいたします。

事務局からは以上になります。

○愛甲部会長 ありがとうございます。

2. 議 事

○愛甲部会長 それでは、議事を進めていきたいと思えます。

一つ目の議題は、生物多様性さっぽろビジョンの目標案及び進捗の管理についてです。

前回いただいたご意見を受けて事務局で整理をしていただいておりますので、内容について、資料1に基づいて説明をお願いいたします。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） 札幌市環境局の寺島です。よろしくお願いいいたします。

目標案の説明をいたします前に、1点だけご覧いただきたいものがあるので、画面共有をさせていただきます。

前々から、ゾーニング図をどのように修正するかという話をしておりまして、テスト版ですけれども、ウェブ上に作成してみました。

これがゾーニング図ですが、拡大もできますし、ほかのレイヤーを出すこともできるようになっております。例えば、鳥獣保護区はどこかとなったら、ぽんと出てくるようなものを作成して、見ていただくようにできたらいいなと思っています。生物の情報とか外来種の情報はまだ載せられていないですが、こういう感じでイメージを持っていただけたらいいかなと思います。また、ヒグマのゾーニングも重ねて見られるようになっておりますので、ヒグマの都市近郊林ゾーンとか、市街地周辺ゾーンとか、こういったものも併せて表示できるようにしています。

後日、URLを送らせていただきますので、実際に見ていただけたらと思います。どうぞよろしく願いいたします。

本題の資料を共有し、説明をさせていただきます。

まず、事業スケジュールです。

一部修正をさせていただいたところがありますので、説明いたします。

前回の委員会の中で、レッドリストの掲載種に関する目標などのお話をさせていただいたときに、データ数が不足しているのではないかというご指摘もいただいております。レッドリスト掲載種には297種あるのですが、市内の生息データがどのくらいあるのか確認をしてみたところ、297種のうちの42%ほどの種のデータしかないことが分かりました。ですから、そういった課題も踏まえまして、レッドリスト掲載種に関する情報収集をできるような体制を何か考えなければいけないのではないかということで、事業予定のところにそういった内容を記載しております。

それらの情報収集体制を構築した上でレッドリストの改訂作業に入っていくという流れが必要かと思っております。

ほかにつけ加えたのは、普及啓発、情報提供のところが弱いと感じておりましたので、情報発信というところも追加でこちらに掲載させていただいております。そんなに大きな変更点ではないのですが、そこを修正させていただいております。

次に、目標のお話に行きますが、2050年と2030年の目標案ということで、前回お見せした資料に関しては、2050年目標の表が1枚あり、もう一個、2030年目標の表が1枚ありまして、分かりにくいというご意見もいただいていたと思います。

2050年目標は、数値にかかわらず、もう少しざっくりとした目標でもよいのではないかというご意見も頂戴しておりましたので、その辺りも踏まえてまとめてみました。

赤字が直したところですが、もともと各基本方針が三つありまして、生物多様性の保全に関する基本方針、理解を深めていくというところ、生物多様性に配慮した取組を行うというものがありまして、ここを赤字にしています。ここは、もともと「連携協働」という言葉が入っていたのですが、「積極的に」に変えました。一番上にも「連携協働」が入っていて、どちらがどういうものなのか分かりにくいということがありましたので、修正をさせていただきます。

それから、基本方針1にぶら下がっている生物多様性の保全に関する目標ですけれども、

前回の資料で四つに分かれておりましたが、それを一つにまとめております。

言っていることをまとめただけなのでそんなに変わらないのですが、「多様な動植物が生息、生育する豊かな自然環境が適切な管理により保全されており、各ゾーンがあるべき姿を保っています。また、野生鳥獣とのあつれきが減少し、外来種の生息が抑制されています。」という形にしております。

前回の部会の中で、各ゾーンがどういう状況になっていたらいいのか、ゾーンに関しての保全というところも検討が必要ではないかというご意見としていただいておりますので、ここをつけ加えさせていただきます。

2050年目標は、理解に関する目標、行動の実践に関する目標と合わせて三つ設定していきまして、それら三つの2050年目標を達成するために、2050年までの間にどんなことをしていくのかということをごちらの列に2030年目標案として記載しております。

2030年目標につきましては、前回のときの資料でお示した内容だとボリュームが非常に多かったものですから、絞って掲載して、赤字のところを修正した形にさせていただきます。

まず、レッドリストに関する目標ですけれども、リストに掲載している種類の数を維持したり、リストに掲載している種が減ったりということがあって、なかなか難しいのではないかとご意見をいただいておりますので、まずは、情報収集や、調査を行ったりしてリストを改訂するというご意見、また、可能な種類に関しては保全計画をつくって、その計画に基づいた保全活動を行うという内容に目標を設定させていただきます。

自然共生サイトにつきましては、目標として、認定件数20件、自然共生サイトを指す件数を20件という形にしております。

具体的に数値を入れたのですが、面積などにして、すごく広いところが1件認定されたらそれでおしまいという形になってはあまり意味がないのかなとも思いましたので、一応、件数で目標をつくっております。

外来種につきましても、前回、ご意見をいただきましたので、まずは優先順位リストの作成をいたしまして、種ごとの防除実施計画を策定して、それに基づいて対策を行うというふうにしています。

野生鳥獣対策については、ヒグマ基本計画の定期的な見直し、更新に加えまして、エゾシカの管理計画を策定し、それに基づいて管理を行うという内容をこちらに記載しております。

指標種に関する目標はそのまま残しております。

それから、理解に関する目標ですが、愛甲部会長から生物多様性の意味を知っているという目標を60%とか70%に上げるのは大変なのではないだろうかというご意見もいただいておりますので、改めて考えてみたのですが、学校教育で生物多様性について見聞きしたというアンケート結果がございまして、令和2年度に市民アンケートで確認した

のですが、そこを見ると、全体としては、小学校で7.1%とか、要は10%を割るぐらいの割合だったのですけれども、29歳以下に絞って確認してみると、20%から40%近い方が学校の授業で生物多様性について知ったきっかけがあるということだったものですから、こういった方々を順調に増やしていくことで、全体にわたって生物多様性についての認知が進んでいくのではないかと考えまして、小・中学校や高等学校の授業で知った割合を目標に定めてみてはどうかということで入れております。

それから、情報発信に関しての項目が足りないと思いましたので、日頃やっていることではあるのですが、ツイッターによる情報発信をコンスタントに行っていくということで、件数も入れて設定をしております。

主な項目ごとの変更点はそんな感じですが、これは難しそうだとか現実的ではないなど感じたところに関して、前回の資料から項目自体を削除しているものも幾つかございます。

説明は以上でございます。

○愛甲部会長 ただいま目標案等について説明がありました。

ご質問、ご意見などをお願いいたします。事業スケジュールの部分でも構いませんが、いかがでしょうか。

○西川委員 3点ほどあります。

自然共生サイトで、認定したものが20件と、認定するためのものが20件と二つに分けてあります。後者のほうは、保全対策を行ってもっとよくしてから認定するとか、そういう働きかけをするものなののでしょうか、それとも、単に認定の手続上の問題なのかということをお教えしてほしいです。

それから、指標種の扱いについて、全ての生育、生息が認められるという書き方がところどころに出てきているのですが、分かりづらいです。

また、学校教育で生物多様性について知らされるという目標にするよりも、全ての学校の授業で生物多様性について教えるという目標にできないのでしょうか。

以上の3点です。

○愛甲部会長 事務局、いかがでしょうか。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） ご質問をありがとうございます。

自然共生サイトを指すところが20件としているのですけれども、2番目の自然共生サイトを活用した保全対象の拡大という事業の中で、自然共生サイトに組みたいところを支援するような事業を今後やっていけたらいいなと思っておりまして、その中で、やりたいところを把握できる仕組みがあれば、把握できたところを20件まで持っていきたいと考えています。逆に、こちらから働きかけるケースも考えられると思うのですけれども、そういったところを増やして行って、20件ぐらいまで持っていけたらというようなことを考えてございます。

二つ目のご質問は、指標種の生息が確認されているというのは分かりにくいということでした。確かに、指標種が全部で三十何種ありますが、それが札幌市内のどこかで確認で

できればオーケーということでこれまではやっていたのですけれども、例えば、地区でこういうところに生息しているというのを具体的にしたほうがいいということでしょうか。

私も、どこかで生息できているデータが取ればいいという考えでこちらを書いておりますので、そういうふうを考えていました。

三つ目のご質問は、教育委員会とも12月にお話をしていたのですが、学校の授業で取り入れるということになりますと、学習指導要領の中に入っていないと授業では取り扱っていただくのが難しいと聞いております。

先般、国家戦略の改定の前にパブリックコメントが出されていたかと思うのですが、その中にも教育について記載があって、説明会に行ったときに質問させていただいたのですが、今後、学習指導要領にも入れるような働きかけをしていくという話はされてきました。

ですから、そこを飛ばして札幌市だけ授業に入れてくださいというのは、状況としてはなかなか難しいと思っていますので、そうは言っても、取り入れてもらうために、例えば、総合学習の時間とかで取り入れていただけるようなプログラムをつくって、売り込んで採用していただくというようなことを少しずつ広げていけたらいいのかなと思っています。そこは、徐々に進められたらと思っています。

○愛甲部会長 西川委員、いかがでしょうか。

○西川委員 指標種の扱いについては、まず、どういう環境の指標なのかというものが種によって違うはずですから、理想的には、札幌市のこういった場所にどの指標種が分布しているかが把握されている必要があるということです。何となく調べて全部いましたというのだと意味がないと思います。

せっかく選んだ指標種を有効に使うための戦略を少し考えたほうがいいと思っています。

○愛甲部会長 ありがとうございます。

これはもうちょっと工夫が必要かと思うのですが、対応できそうでしょうか。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） これまでも生息状況などを市民参加型の調査などで確認していますので、それを踏まえた形に何かできないか、検討してみたいと思います。ありがとうございます。

○愛甲部会長 お願いします。

ほかにいかがでしょうか。

○有坂委員 自然共生サイトの認定件数で測るところですが、30 by 30のことを考えると、件数よりも、面積がある程度確保できていることが望まれると思います。その辺を併記するのは難しいと思いつつ、先ほど、1件でも広ければという話がありましたが、逆に20件でも狭ければあまり意味がないとも言ってしまうので、その辺りのご意見を聞かせていただければと思いました。いかがでしょうか。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） 地図を眺めていると、こういう広いところがそう

なったらいいなというところが幾つかあるのですが、そこをお願いしたらやっていただけるとい保証もない中で、目標として面積を出していくということが難しいと考えているところではあります。

おっしゃるとおり、面積に貢献するという必要かと思うのですが、そこを目標としておいて、うまいこといかなかったら難しいと思います。そもそも計算が難しいですし、やれそうかなという推測でしかいけないので、今の段階ではまだ難しいと思っております。

○愛甲部会長　ちなみに、今、札幌市に保護地域は何%あるのですか。計算したことはありますか。

○事務局（寺島生物多様性担当係長）　前回、資料で説明させていただいたのですが、約33%です。

○愛甲部会長　30%を超えているのですね。

○事務局（寺島生物多様性担当係長）　既に保護地域になっているところがそのぐらいありますので、地図を何となくイメージしていただけたら、南区のほうに国立公園が固まってありまして、そっちのほうが多くなっています。

○愛甲部会長　主に国立公園と鳥獣保護区ですね。

保護林はありますか。

○事務局（寺島生物多様性担当係長）　保護林もあります。

○愛甲部会長　そうしたら、結構ありますね。

ということは、ひょっとしたら、面積どうこうよりも、多くの民間の方に協力していただくというのが目標としてはいいのかもしれませんが。札幌市としては、面積として必ずしも大きいものをどんどん加えていく必要はないということです。

別に40%、50%まで行っても構わないのですし、なかなかそうはいかないと思いますが、面積も加えた目標にするかどうかは検討してください。そういうご意見は何ったということにしておけばと思います。

ほかにいかがでしょうか。

有賀委員、お願いします。

○有賀委員　エゾシカの管理計画のところ伺います。

ヒグマは生物多様性とは別に基本計画がつけられていると理解していたのですが、今、エゾシカについてはあるのですか。これからつくるのだとしたら、生物多様性のほうでつくっていかうという形なのではないでしょうか。

○事務局（寺島生物多様性担当係長）　ご質問をありがとうございます。

エゾシカの管理計画につきましては、今、札幌市では、鳥獣被害の計画として農政部局で目標をつくっているのですが、全体的な個体数管理という意味での計画はない状態です。

ですから、それをつくらなければいけないと考えていたのですが、生物多様性のビジョンの中に何か埋め込むというよりは、個体数管理の計画を別に作成していけたらと考えて

おります。

○有賀委員 ありがとうございます。

○愛甲部会長 ほかにいかがでしょうか。

私から伺います。

まず一つ、自然共生サイトについては、あえて言いますけれども、20件というのは数として本当に大丈夫ですか。

また、目標の12番目のところで、市民アンケートにより確認するというので、現状でも行っている生物多様性保全活動に参加したり取り組んでいたりする市民の割合が何%以上というところの目標値がまだ入っていませんが、この目標値をどう考えるかということと、本当に同じ聞き方で継続していいのかどうか。この聞き方だとパーセンテージがなかなか上がっていかないというのが実態で、現状も令和2年で3.3%ですね。

今考えなければいけないのは、本人は生物多様性保全活動に役立つと思っていなくても、品物の調達だったり、そういうことに配慮することで、結果的には生物多様性の保全に役立っているということも含めてそれを高めていかないと、生物多様性保全のための活動だけに参加しています、取り組んでいますという数だけで評価してもこの数はなかなか上がっていかないのではないかという気がしていて、そこも含めた数にすべきなのか、検討してもいいのではないかと思っています。

ずっとこれが低調で行くと、目標として掲げているとなかなか達成できないものがずっと続いているのもどうかと思ったので、その2点についていかがでしょうか。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） 自然共生サイトの20件は、正直、ハードルが高いかもしれません。難しいかもしれませんが、2027年、2028年ぐらいまでに事業計画、札幌市のアクションプランをこれからつくっていくという中で、そのぐらいまでに10件ぐらいという目標を設定したいと考えていまして、そこから先、三、四年ほどで20件まで何とか持っていったらと考えています。

難しいかもしれませんが、チャレンジな目標と挙げていますが、状況によっては、都市公園がそこには当てはまらないよとなったら詰まってしまうかもしれませんので、そのときは数字を変更しなければいけないかもしれません。

その辺は、状況を見つつ、今後、数字を確定させるまで情報を集めていきたいと思っています。

それから、保全活動への参加に関してのご指摘は、まさにそのとおりだと思っています。

保全活動そのものでなくても、間接的に生物多様性に寄与する、行動する人が増えていくということがすごく大事だと思っていますので、ここの内容については、そういう行動変容につながるようなきっかけが何かあって、生物多様性に寄与する行動ができているかどうかを確認できるような指標がないか、考えてみたいと思います。

○愛甲部会長 今年度の自然共生サイトの試行事業の前期で、既に三菱マテリアルさんの

手稲山林、マテリアルの森が試行事業で参加しているのです。

この間、国の会議で聞いた話だと、基本的に試行事業に参加して認定相当と認められたところは、簡単な申請のみで4月から始まる本申請、これは4月3日から予定されていますけれども、そこで認定される予定になっているようで、2023年に自然共生サイトが札幌市でも一つは確実に誕生することになるのですが、ひょっとしたら、それ以外にも幾つか出てくる可能性もありますので、その辺の様子も見ながらになると思います。

ほかにはいかがでしょうか。

○有坂委員 今回のアンケートの話ですが、中身はこれでいいのかというものが幾つかあります。

ざっと見たところ、生物多様性の保全につながる行動に当てはまるものに丸をつけるという項目があります。そこには、生物多様性保全に寄与することが書かれているものと理解しますが、生き物を飼育するときは最後まで責任を持って育てているというのはもちろんそうなのですが、最後まで責任を持って育てていけばいいのか。ペットのことを考えると、生物多様性に寄与しないことがたくさんあります。そもそも希少種保護や外来種拡散といった問題にペットの対象は関わりますが、その点にはあまり触れられていないのがちょっと気になります。また、物を選ぶときに、地元のもの、旬のものと書かれていますけれども、例えば、札幌市はフェアトレードタウンであるので、フェアトレードのものを選んでいくといった選択肢があっても良いかと思います。幾つか中身が気になるところがあるのですが、この中身について変更するという可能性はあるのでしょうか。

多分、皆さんも中身で気になるところがあるのではないかと思います。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） すみません、今、どちらをご覧になられていたのでしょうか。

○有坂委員 アンケートの第1回のもので、資料にはないです。令和2年度に実施された札幌市のアンケートです。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） 今、確認します。

○有坂委員 愛甲部会長からもあったように、中身で回答が大分変わってくると思うので、この辺は結構重要なことかと思います。ハードルが高くなってしまっている場合もあるだろうし、逆に低くなっている場合もあるだろうし、気になりました。

○愛甲部会長 今、有坂委員が言われた動物を最後まで責任を持って飼うという項目があって、それは何%になっていますか。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） 私の手元で見ているのですけれども、対象者全体で、生き物を最後まで責任を持って育てると答えた人が14.8%です。

○愛甲部会長 では、先ほどの3.3%はどういう計算で3.3%なのですか。それは入っていないのですか。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） 数え方としては、保全につながる行動のうち、自然保護活動や美化活動に参加しているといった直接参加しているような項目の数字を拾っ

てきて計算しているという数え方になっております。

○愛甲部会長 ということは、それだとすごく低いということですね。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） そうですね。自然観察会や講演会に参加しているとか、自然保護活動や美化活動に参加しているという方だと、本当に2.5%とか1.5%というぐらいの数字になっています。

○愛甲部会長 そこを重ね合わせたものが3.3%ということでしょうか。

そうだとしたら、ちょっと低く見ているところもあると思うので、そこは検討の余地があるかもしれないですし、あまりやり過ぎると、有坂委員が言ったように、ただ単に動物を飼っていますというだけで生物多様性の役に立っているという話になってしまって、それは言い過ぎだろうというところもあるので、あまりやり過ぎないほうがいいと思います。

ただ、先ほど確認したら、生物多様性レポートを見ると、当初は平成23年に5%で、そこからずっと来て、どちらかというところが落ちてきている状態になっているので、指標としてはあまりよくないかもしれないですね。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） ありがとうございます。

○愛甲部会長 ほかにいかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○愛甲部会長 それでは、後半の改定の話とも関係してくるので、後ほど振り返っていただいても構いません。

それでは次に、改定生物多様性さっぽろビジョンの骨格案について、前回の第5回部会で、前半部分については皆様からご意見をいただいています。変更点、今回追加になった点を併せて、事務局より資料の説明をお願いいたします。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） それでは、資料を共有させていただきます。

資料2になります。

こちらは、前回、骨格案を皆様にお配りして、いただいたご意見ですけれども、大体90件ほどいただいておりますが、各ご意見について、こういうふうに修正しましたというものを一覧表にしておりますが、これを全部説明すると時間が足りないので、後ほど、各自、いただいたご意見がどんなふうになっているかをご確認いただいて、また何かありましたらお知らせいただけたら大変ありがたいと思っております。

こちらに関しては細かく説明できませんので、一旦閉じさせていただきます。

本文が実際にどうなったかというのを見ていただきながら、説明をさせていただきたいと思っております。

大きく変えたところがございまして、第1章の最初で、前回の骨格案で、最初に札幌市の環境とか成り立ち、気候などが書いてあったのですけれども、生物多様性さっぽろビジョンというものがそもそも何なのかが書いていないと分かりにくいと考えました。

そこで、まず、ビジョンの目的は何であって、改定されますということと、生物多様性とはそもそも何かというところを最初に書かないと伝わりにくいのではないかと考えまし

て、最初に生物多様性に関する説明、生態系、種の多様性、遺伝子の多様性について説明をしまして、コラムで、札幌市内にこういう生態系がありますというものをまとめて書くことにいたしました。

前回ですと、ゾーニングの説明のところにも生態系の説明があったり、ばらばらにいろいろなところを書いてある状況でしたので、生態系に関する記述は全てここに集約するような形でまとめております。

最初に自然林、自然草原と書いていまして、二次林、人工林、公園緑地等、防風林、畑地、雑草地、そして、湿地は独立して書いたほうが良いというご意見をいただいたので、湿地は分けて書いております。それから、河川、河畔林があって、その後、種の多様性について掲載しています。

今、このリストを作成中で、確認種数について集計を進めています。

それから、レッドリストと指標種についての記載をその後にして、外来種の説明、ここにアメリカザリガニとアカミミガメが追加になったので、その説明を追加しています。

最後に、遺伝子の多様性についての説明とコラムがありまして、そこから、前回最初に書いた札幌市の概要に入っていきます。どういう気候なのか、地勢がどうなっているのか、ここは博物館活動センターの学芸員さんにアドバイスをいただいて修正を加えております。地勢図に関しては、ご意見をいただいて、市街化区域などの表が重なっていると思われないのではないかという指摘があったので、図を修正して、純粹に低地、扇状地性低地、火山灰台地、団地段丘、山地という区分に従った図に変更しております。

それから、土地利用の変遷について、前回、ご意見をたくさんいただいていたのですが、こちらに関しては、結局のところ、もともとこの図自体が博物館の展示用につくられたものを使わせていただいているという経緯があって、20年ぐらい前に作成されたものと聞いております。

凡例にない白い部分が結構あるのですが、ここは読み取れなくて、色をつけられなかった場所なのではないかということもありましたので、正直なところ、あまり正確に面積がどうなっているというところまで踏み込んでこの図を見るのは危険ではないかと考えまして、大まかにこういう流れで歴史的には土地の状況が変わっていますということを把握する程度の図と考えていただいたほうが良いと思っております。

ただ、その中でも、湿地に関する表現があったほうが良いというご意見をいただいたので、こちらに文言として加えさせていただきます。

それから、札幌の魅力についてのアンケート結果が記載されまして、生物多様性の損失要因、生態系サービスはコラムにまとめてございます。

それから、生物多様性の問題を身近な問題として捉えるとタイトルを変更しました。

この図は、デザインのときに絵にしようと思っております。

それから、基本姿勢のようなことを書いてあったのですが、こちらは、札幌市の取組み姿勢とタイトルを少し変えまして、内容も修正を加えております。

SDGs の関係についても、項目をもう少し増やしたほうがいいのかというご意見をいただいたので、当てはまるものを少し増やして掲載しております。

これは、この中のどれというものをピックアップして説明したほうがいいのかもかもしれませんので、これから考えてみたいと思います。

その後、国家戦略改定に向けてパブリックコメントがありましたので、その内容をこちらに反映しております。

用語が難しいというご指摘をいただいておりますので、後でご説明させていただきますが、最後に用語集をつけておりますので、そちらを参照していただく形にしています。

それから、国際目標です。昆明・モンリオール生物多様性枠組に関して触れて、その中身については、資料編ということで最後のほうに記載する形にしております。

それから、札幌市の取組に関しての説明書きですが、表が多かったので割愛したりして、少し内容を短縮しています。

グラフも、項目の中身が分かりにくいというご指摘をいただいたので、報告データ数と申込チーム数と直しております。

それから、この辺はずっと並んでいて、絵を新しくしたりしていますが、そんなに変わったところはないです。

最後に目標値の達成状況ということで、この表に関しても、どれが達成できたのか分かりにくいというご指摘があったので、達成できたところに丸をして四角く囲んでおります。

改定の目的をそちらに書いていまして、その後で第2章の現状と課題というところに入って行く形になります。

ここに、前回、図をたくさん出しておりました土地利用状況の変化の図ですが、結局のところ、こちらに関しても途中で凡例の定義が若干変わってしまったり、もともとこれは衛星画像をベースにして、どこがどういう目的の土地なのだろうというものを拾ってデータ化したものと聞いておりますので、こちらも、正確な面積のコンマ何%まで正確かと言われると、そこまでもないのかなと考えを改めまして、これも大まかに傾向をつかむということで、あくまでここ40年間の比較という視点で整理しております。

ですから、こちらの図に関しては、単純に1976年と2016年だけ掲載して、ぱっと見で市街地が増えていますねというのが分かれば十分と考えてつくっています。

凡例も分かりにくいというご指摘をいただいたので、こちらに、元データですけれども、凡例を掲載しております。

気候変動に関しても、具体的に種名を入れたらどうでしょうかというご意見でしたので、入れております。

レッドリストに関しても、調査データ不足とか、その辺も入れております。

こちら辺は、ご意見いただいたところに少しずつ手を入れている状況です。

第3章のビジョンの位置づけですが、ここは説明がないと分かりにくいというお話だったので、どういう経緯で生物多様性のビジョンができたのかとか、道庁さんの計画に関し

てもどういう状況になっているかとか、ここ最近の流れについても追加で記載して、世界目標に関しても記述しております。それを受けて、この図がありますという説明になっていると思っております。

ほかの計画との関係性についてももう少し詳しく書いたほうが良いというご指摘をいただいていたのですが、まだ作業が間に合っていませんでした。ここをもう少し整理させていただきたいので、後日、追加したいと考えております。

それから、第5章の目標です。

ここは、少し整理したほうが良いというご指摘をいただいたので、先ほど前の議題で説明させていただいたとおり、2050年までの目標と、それを達成するための2030年までの計画と進捗管理を示しますということを書いております。

対象区域と周辺自治体との連携事例ということで、石狩市との取組事例をこれからやる予定ではあるという段階ですが、掲載してございます。

ゾーニングに入りまして、この図は、先ほどお見せしたとおり、ここにゾーニング図へのアクセスのための二次元コードか何かを置いて、ここから先ほどのページに飛んで見ていただけるような形で考えてございます。

また、法令による保全の指定状況、自然共生サイトに関しての記述は変わっていないです。

それから、各ゾーンの説明ですけれども、項目も含めて大幅に見直しをしております。

項目としては、自然環境の概要、保全すべき生態系が何であるか、前はここに生態系の説明が書いてあったのですが、重複しているので、最初のほうにまとめております。

それから、自然環境調査の結果と課題という4項目で整理しております。

昆虫の調査結果では、その種類も入れておりまして、また、こちらの図は、そのゾーンだけピックアップして比較するような図をつけております。先ほどと同じで、1976年と2016年を比較したという図だけを掲載する形にしております。

また、書き方に関しても、数字を使うところもあるのですが、コンマ何%という形ではなくて、例えば、山麓ゾーンですと畑や草地が4割減少、建物地は約4倍という大まかな数字に丸めて掲載する形に整理しております。

市街地ゾーンがありまして、最後に低地ゾーンがあって、各ゾーンをつなぐ生態系というのは言葉として違和感があるというお話で、どういうふうにしようか悩んだのですが、結局、河川と緑地しか選択していなかったもので、これでもいいのかなと考えました。回廊とかコリドーという言葉も、ご存じの方にはなじみがあるかもしれませんが、市民への伝わりやすさを考えると具体的なほうが良いと思ひまして、一旦、仮置きでこうさせていただきました。何かありましたら、ご意見をいただけたらと思います。

それから、ゾーンごとの目標が7章にありまして、それぞれご指摘いただいたところを修正しています。

基本方針に関しては、先ほど説明させていただいたとおり、連携・協働という言葉が1

番と3番で両方とも入っていて分かりにくいということだったので、3番目は割愛して、各自が積極的に取組を行うという内容にしています。

ここから先が新たに記載したところで、目標と進捗管理、2050年までの目標を最初にどんと書いて、各事業を具体的に記載しまして、目標が設定されているものに関しては2030年目標をその後に記載して、モニタリング方法を書いて、事業の想定スケジュール、どこのゾーンが重きを置いて取り組むところなのかを記載し、ワンセットにして、ずっとそれを繰り返して、事業ごとに整理して記載していくというものになっています。

外来種対策であれば、こういうことをやります、2030年目標はこうです、モニタリング方法とスケジュール、ゾーンはどこをメインでやりますという流れで、こちらは基本的な考え方もつけております。

60ページから、生物多様性の理解に関する目標ということで目標を書いておいて、事業をこういうふうにしますと書いて、2030年目標を記載するようにしております。

普及啓発については、どういうことを普及啓発していくのかを書いていないとよく分からないので、内容については、特出ししており、まだ整理がし切れていない部分がありますし、文字ばかりで読みづらいと思うのですけれども、もう少し写真とかイラストを入れられたらいいなと思っております。

それから、最後の生物多様性に配慮した行動の実践に関する目標に関しても、2050年目標を入れて、その後で各主体が何をするのかということと、2030年目標、モニタリング、企業、施設との連携に関してどうなのか、その目標をモニタリングするというふうに書いています。

最後ですが、第10章になりまして、誰がやるのかということ整理した表にしております。目標ごと、事業ごとに、誰が主体でやるのかというのをざっと表にしております。

それに関する簡単な説明書きを記載しておりまして、最後に10章の2ということで、2030年目標を事業ごとにばらばらと書いていて分かりにくかったかもしれないので、表形式にして、改めて目標とモニタリング方法だけ抜き出して整理をした表を掲載しております。

その後で資料編が来て、先ほどの新しい世界目標、昆明・モンテリオール生物多様性枠組に関する簡単な解説を掲載し、その後、市民アンケートの結果や、それ以外の資料もここに掲載することを考えています。

それから、用語集を最後に掲載しています。

五十音順で数が多いのですけれども、もともとの現行のビジョンでも書いてあったところもありますが、このような形で掲載しています。

最後に参考文献があって、今のところはこれでおしまいというような状況です。

説明は以上でございます。

○愛甲部会長 非常にボリュームも増してきましたが、今回、第9章以降が変わったのですね。

○事務局（寺島生物多様性担当係長）　そうです。

○愛甲部会長　冒頭に説明があった目標や進捗管理以降が新しく変わったところで、第1章から第8章までは、前回、一度ご覧いただいておりますが、いろいろご指摘をいただいた分、それから、事務局で検討していただいて更新された分になります。

まず、前半の第1章から第8章までについて、ご意見、ご質問を伺います。

○徳田委員　気になったところがありまして、11ページの外来種の種数と56ページの外来種対策の優先度、また、74ページにブルーリストの説明があるのですが、ここで引用されているのがブルーリスト2010なのです。これは、更新のされ方がややこしいのですが、2019年に哺乳類と鳥と両生爬虫類のブルーリストの改訂がありましたので、一番新しいデータを使ったほうがいいのではないかと思います。

○事務局（寺島生物多様性担当係長）　おっしゃるとおりなので、そこは、書き方も含めて現状に合うように修正したいと思います。ありがとうございました。

○愛甲部会長　ほかにいかがでしょうか。

○西川委員　まず、5ページの自然林と自然草原の中に高層湿原の記載が入っています。一方、7ページの湿地は石狩湿原をイメージされているのだと思うのですが、この湿原とは別の自然草原という扱いという理解でよいでしょうか。

7ページに畑地、雑草地というところもありますのですが、ここでは、雑草地の説明で、「外来植物をはじめとする雑草が繁茂した」という書き方になっていますが、「雑草」という言葉を使うのかどうかと、「外来植物をはじめとする」とありますけれども、ほぼ外来種なのではないかと思っています。ほかにも在来の植物が繁茂した雑草地というのはササ地以外にあるのか。その辺りをどういうイメージで書かれているのかをお聞きしたかったです。

それから、同じ畑地、雑草地の後半の「自然の草原とは異なるため適切な管理をしなければ、生物にとっても人にとっても有用な場所にはなりません。」と書かれていて、ここが気になりました。

人にとっては有用な場所にはならないと思いますが、草原性の生物にとっては、外来種であろうが、そうでなかろうが、代替地としての機能を持っていると思うので、有用な場所になりませんかと言いついていいのか、この辺りの書き方をもう少し丁寧にしたほうがいいと思います。

○愛甲部会長　事務局、いかがでしょうか。

○事務局（寺島生物多様性担当係長）　整理し切れていないところもあるのですが、まず、自然草原については、悩んだのですが、高層湿原があるのも把握しておりますし、そこをどういうふうにしようかと考えて、自然草原で一旦まとめて書いてみようということにしております。

説明書きの中には高層湿地が点在しているということも併せて記載していますので、そこで兼ねる形で書いたらどうかと思ったのですが、分かりにくいということであれば、再度、ど

ういう文言がいいのか検討したいと思います。

有用な場所にはなりませんというのは、今、ご意見をいただいて、私も言い切り過ぎだなと思いましたが、ここの表現は修正をかけたいと思います。

また、あまりイメージが湧かなかったのですけれども、もともとある草地は笹地ぐらいかと思うのですけれども、河畔の草地というのはどうなのでしょう。それ以外は、後々生えた外来植物が中心の雑草地というイメージかと思うのですけれども、私も不勉強でよく分からないところがあるので、教えていただけたらありがたいです。

○西川委員

雑草地ですけれども、河原はヨシなど在来種が生育していますが、これについては、後のほうに出てくる河畔林とか河川というところに含まれると思っています。ただ、それ以外の耕作放棄地や、人為的な何かの改変があってそのまま放置されている場所が雑草地と扱われていると思っていますが、それであれば、ササ以外だと主に外来植物によって構成されるという書き方でもいいと思っていますけれども、どうですか。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） 改めて整理をしてみたいと思います。ありがとうございました。

○愛甲部会長 ほかにいかがですか。

○有坂委員 二つ気になるところがあります。

これはどうしようもないとは思いつつ、7ページ目の湿地のところでも福移篠路湿原が出てきます。今、埋立てが進んでいて乾燥化が問題になっていると思うのですけれども、その場所をこのように書かれてしまうと、ちゃんと保全されていて残っているというイメージになると思います。ただ、現状はそうではないと理解しています。

いまの書き方ですと、問題が把握できないというか、誤解を与えてしまうと感じましたので、これは何か考えたほうが良いと思いました。

もう一つは、21ページの生物多様性の問題を身近な問題として捉えるというところで、図解されているところがあります。

これは、肉食動物の絶滅というところからスタートしていますが、身近な問題として捉えるという意味においては、これを身近な問題として捉えることができる例なのか疑問です。最後に生態系サービスが低下すると書かれていますけれども、そもそも私たちの消費生活のスタイルによってこうなっているということだと思うので、出発点が違うというか、生活に関わることを入れたほうが身近な問題になるのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） 湿地のところはそういう状況だということに関しては把握しているのですが、それをどう書いたらいいかというのは、もう少し考えてみたいと思います。

それから、21ページで、絶滅がいきなりぽんと来るのは親近感がないというのは、おっしゃるとおりだと思います。

ここでは、私たちの生活にも影響があることなのだというを書けたらいいと考えていたので、それにつながる事例にこれがふさわしいかと言われると、そうではないかもしれませんが、ほかの事例に置き換えてもいいかもしれないですし、考えてみたいと思います。

ありがとうございます。

○西川委員 これに関連して、よろしいでしょうか。

ここは、言葉で書かれているので、すごくイメージがつかみにくいと思います。イラストで表すと、少し身近になるのかなと思います。

また、有坂委員がおっしゃっていたように、もう少し身近なもので感じ取るということも大事だと思います。自然とちょっと離れた感じになるのかもしれないけれども、今書かれているところに併記してもいいと思いました。これは、いろいろなパターンがあると思うのです。

ここで示されていることは、一般的には受け入れられやすいことでもあると思うので、両方あってもいいと思いますし、それをイラストで表すと身近なところに落ちてくるのではないかと思います。どうでしょうか。

○吉田委員 西川委員のコメントに賛成で、肉食動物からの1本矢印だからまずいと思うのです。これをぱっと見たら、みんなオオカミの話になると思うのです。多分、それはあり得ない話で、そもそもその方向に行かれることが我々のような哺乳類学者としては絶対に嫌な方向性です。

例えば、下草植生が減るとするのは明らかに鹿の話だと思うのですけれども、それは、先ほどおっしゃっていたとおり、いろいろなものが関わるので、例えば雪が減ってきたとか温暖化だって影響していると思われるのです。多様なものが影響してきて、結局、生物多様性が減って、生態系サービスが落ちるということで、さっきおっしゃっていたとおり、イラストだったり、イメージだったりという整理にしたほうがいいと思います。何でもかんでも1本矢印で終わるというものではないというのが正直な感想です。

○愛甲部会長 文章、文字で書いてあるところもありますし、もう少し工夫をしていただければというところだと思います。

○有坂委員 一つだけいいですか。

食生活から始まるという図は見たことがあるので、きっと分かりやすい図解したものが何かあると思います。そういうものを探されて、参考にされるとよいと思いました。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） 事例も含めて、どういうものがいいか、考えていきたいと思います。

○愛甲部会長 ほかにいかがでしょうか。

○有賀委員 全然違う話ですけれども、ここまでの章の中にコラムがたくさん入ってくるのですけれども、この位置づけというか、本文の中にコラム、コラムと入ってきたときにどういうふうに読めばいいのか分かりにくかったです。以前のときは、コラムを四角く囲

って括弧を入れていただいたり、そこだけ独立して、読んでも読まなくてもいいという感じの書き方だったと思うのですが、そのページの中に入れていたということは、その前後の中身と関係があるからその場所なのだと思いますが、その辺はずっと読み続けていく文章なのか、ちょっと詳しく知りたいときに読んでほしいものなのかということが分かりやすくなると、コラムが分かりやすくなると思いました。

○愛甲部会長 現行は、教えてカッコー先生となっていて、いかにもそこだけコラムは別扱いというのがぱっと見て分かるようになっていました。この後、構成とかレイアウトをやられるときにその辺を工夫していただければと思います。

○吉田委員 コラムに関して、私も同じように読みにくいと思ったのですが、現行の対策、読み物としては、今の構成で良いと思いますが、難しいところだと思うのですが、例えば、土地改変の最新情報がバブル崩壊になっています。今の大学生自体、バブルが崩壊してから生まれてきている子たちなのに、最新データが全て2016年とかだったりするのです。

すなわち、こういうものをつくるとなれば、データ自体が5年前のものしかないとか、3年前のものしかないと思うのでね。でも、そういうコラムは、5年たったら読み物としての価値は、下がってしまうと思います。

何を言いたいかというと、全体としては問題ないのですが、見せ方としては、ウェブでどうやるかということをしっかり考えたほうがいいです。

すなわち、最初に寺島さんに見せていただいたのはArcGISオンラインだと思いますが、ああいうものを使えば、例えば、ストーリーマップというものがありますね。展開を見せるとか、変化を見せるという方法はあると思うのです。あのソフトは、そういうものにごくたけているのです。有坂委員は知っていると思いますけれどもね。

そういうものを、多様化するということイメージした構成にしていたほうがいいと思います。来年になったら新しい情報が出てくるかもしれないということを常に頭に入れて、ウェブ化を意識したデータの収集、今のうちからの構成、場合によって、コラム自体はそっちに持っていくのもありかと思えます。

うちの子は、PCさえ開きませんからね。携帯でしか見ない子たちなので、正直に言うと、76ページという大作は、読み物としてはオーケーですが、一部の若い世代にはきついなというところを判断していただければと思います。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） 確かに、76ページになってしまったな、長くなってしまったと思いましたが、コラムの構成など、有賀委員からもご意見をいただいたとおり、もう少し考える必要性はあると思います。

ArcGISに関しては、私も全然使いこなせていないので、うまく表現できるものがゾーニング図以外にあるのかどうか、何とも言い難いところではあるのですが、そういった視点も大事だと思います。何かできそうなことがないか、考えてみたいと思います。

バブルで土地利用の変化が終わっているという話ですけども、先ほども説明したとおり、これは20年前につくったものなので、それ以降、整理できていないところです。

場合によっては割愛してもいいと思うのですが、これまでの変化を知るところも要素としては残しておいたほうがいいと思ったので、そのまま掲載しているところではあるのですが、これに代えられるようないまい説明ができる図というのは、今のところ持ち合わせがなく、正直、これが更新できれば一番よかったのかもしれませんが、現状では、お金の問題もあって、それができていないのが正直なところですね。

○愛甲部会長 確認ですが、コラムを含めて、本文の内容というのは、今回のものは地域戦略として確定するので、冊子でつくったものが完成版で、中身は更新したり改定作業をしない限りはいじれないということになりますね。さっき言われたように、ウェブ上で最新の情報に更新していくというのは、紙ベースのものとはまた別ということになってしまうので、それをウェブ版で更新していくということにはならないですね。

要は、札幌市でつくった計画書というのは、令和5年度末にフィックスされてしまって、データとかコラムを含めて中身を簡単に更新するわけにはいかないですね。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） おっしゃるとおりです。

○愛甲部会長 そうだとすると、生物多様性レポートという毎年進捗状況を確認するために出しているものの中にそういうものを反映させていくことになると思いながら聞いていました。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） 使えるものとしては、そういうものを使って、別途、こういうところを変えましたという状況をお知らせすることはできると思います。

○愛甲部会長 そうですよ。その辺を工夫していただければ、今、吉田委員がおっしゃったようなことにも対応できるし、短く読めるものでコラムのようなものを書いてあると、新しい情報に更新できるということもあると思っていました。

ほかにいかがでしょうか。

○西川委員 76ページもあると、読むほうも結構しんどいですね。

34ページですけれども、真ん中の2の野生動物とのあつれきの増加のところ、中身ではなく、ダブリがあると思いました。

「例えば、ヒグマやエゾシカが」と書いてあって、例えが人身事故とか交通事故ですけれども、その上に「交通事故」という言葉があったり、例えばになっていない感じがしたのが気になりました。

また、飛びますが、51ページです。

こちらは、前のページから続くのですが、「植物の約32%が外来種となっており、札幌の山地、山麓ゾーンから」というところがあるのですが、「河川が植物の種子や動物の移動ルートになっていることがその要因とも言えます。」というのは、外来種が32%もあることの要因ということなのかと思います。しかし、外来種以外の種子や動物の移動ルートにもなっているはずなので、外来種も含めて、ここは多様性が高い場所だということをお願いなのか、その辺がよく分からなかったです。

この下の課題のところは、移動経路の連続性の確保を図っていく必要があるのだけれど

も、前のところでは外来種をもたらすとか、ここの書き方を少し整理しないと、すんなり入ってこない感じがしました。

55ページまで飛んでしまっているのでしょうか。

外来種対策ですけれども、モニタリング方法のところ、「防除対象種毎に定めた目標（努力量に対する捕獲または、単純な捕獲数）を達成しているかを確認する。」となっているのですが、防除対象種ごとに定めた目標というのは捕獲数だけではないので、これだけを書いてしまうと捕獲数と思われると感じました。

○愛甲部会長 3点あったかと思いますが、いかがでしょうか。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） ご意見をありがとうございます。

あつれきのところは、文言をもう一回整理いたします。

また、51ページのところも、文言も分かりにくいところがありますので、構成も含めて、もう一回整理をし直したいと思います。

それから、外来種の捕獲数のところですが、捕獲数以外だと目標をどういうふうに設定できるのか、あまりぴんとこなかったのですけれども、ほかにどういうものがあるか、ご助言をいただけたらありがたいです。

○西川委員 例えば、本当に初期の場合だと根絶を目指すということもあるでしょうし、もう蔓延してしまった場合は、大事なところ、特に保護しなければならない地域には入れないとか、そこだけは根絶させるとか、せっかく防除対象種ごとに定めた目標と書かれているので、そこがもうちょっと生きる形に書いたほうが良いと思いました。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） 今のお話でイメージできました。ありがとうございます。

○愛甲部会長 ちなみに、この防除リスト、防除対象種ごとに目標を定めるというのは、今はどういう状況ですか。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） 具体的にこの種はどのぐらい捕獲するという感じではなくて、そこまでの設定ができていないです。努力量に従ってどのぐらい取ろうという目標値の設定までに至っているものはほとんどないので、時間ができたときにわっと取りに行って、取れるだけ取るみたいな状況になっているところがあります。結果的に、どのぐらい取れたね、それに対して、来年はどうしようかみたいな感じで進んでいます。その辺に関しては、細かいところも考えながらやらなければいけないですし、数値をちゃんとデータとして取れるような方法で防除をするということも考えなければいけないと思っています。

○愛甲部会長 そうだとすると、この努力量に対する捕獲数とか、単純な捕獲数とか、今、西川委員がおっしゃったようなことは、いきなりモニタリング方法の中に書くのではなくて、防除リスト、それから、目標を定めるということをまず2030年は目指すということでもいいですか。

そうだとしたら、防除実施計画の中にそういうことを書くというふうに目標の中に書い

ておいて、モニタリング方法としては、そこで定めた目標を達成しているかを確認すると
しておいたほうが無難なような気がしますが、いかがでしょうか。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） そのとおりだと思います。

○愛甲部会長 これは、状況によっていろいろ変わってくると思うのです。2030年
すからね。

もう第9章に入っていますので、後半のほうでも構いません。適宜、ご意見を出してい
ただければと思いますが、いかがでしょうか。

○山崎委員 細かな種名といいますか、分類群が違っているなというところが1個ありま
した。9ページの種の多様性のところのサッポロマイマイは、昆虫ではなくて、カタツム
リの仲間なので、サッポロマイマイの前に「陸貝（カタツムリ）では」という言葉を入れ
なければいけなくなります。

そのほかに、第9章の先ほどの外来種のところとも似通ったことになるのですが、その
前になるのか、53ページの（1）のレッドリストの掲載種の保全事業の検討と実施とい
うところはあるのですが、目標にも挙がっていましたが、保全事業を実施していく、
保全活動を進めている種の割合がモニタリング方法で上がっていて、目標設定にされてい
るのですけれども、これは、具体的にはどういう保全の事業を行っていく予定なのかとい
うことを知りたいです。

これは、絶滅危惧種なので、現状の生息している数が限られている中で、また、ほかの
地域との遺伝的な多様性についても検証した上で保全活動をしなければいけないので、事
前の準備に非常に時間をかけたり慎重にならないといけない部分があると思うのです。そ
うなると、5年計画、10年計画なりの行政の事業としてやっていくのに、しっかり予算
も見ておかなければいけないところもあるでしょうし、それなりに専門的な知識が必要な
人材というか、そういう業務が発生してくると思うので、どの辺まで具体的に考えてい
るのかというところが気になりました。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） ここに関しては、現状でレッドリストを見渡して
どれが保全活動まで行けるのか、現段階ではあまり明確にイメージできておりません。

ですから、今後、行っていかなければならないレッドリストの見直しの中に、吉田委員
から何度もご意見をいただいている保全計画を具体的にそこに落とし込んでいくという作
業の中で、レッドリスト掲載種のうち、どれを優先してやっていこうかということもそこ
で検討して、その中でどういった計画の下にどういう活動をしていくのかということをも
具体的にしていって進めていくというやり方になるのではないかと考えております。

今すぐ、これからというものを私だけで決めるものではありませんし、もう少し検討を
進めて、札幌市としてどういった種をやっていくのかということこれから考えていかな
ければいけないのではないかと考えております。

○愛甲部会長 第9章の内容は、基本的に最初に見ていただいた資料1の目標のところ
に書いてある2050年目標、それから、2030年目標案とモニタリング方法が文章化さ

れて書いてあります。

それから、資料1の表には書いていないゾーンごとの印がつけてあるところになります
が、ゾーンのところが表になっている、二重丸、丸、三角というのは、何を意味するかと
いう説明、凡例がどこかにあったほうがいいですね。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） おっしゃるとおりです。凡例を入れるようにしま
す。

○愛甲部会長 お願いします。

西川委員、お願いします。

○西川委員

54ページですけれども、最初にも申し上げたのですが、自然共生サイトを活用した保
全対象の拡大のところ、たしか30 by 30では、保全地域に入れるというだけではなく
て、そこを適正に保全するということまで入っていたと思うのです。ですから、再生
や保全もセットで考えていかなければいけないのではないかと思いますので、そのよう
に記載していただきたいと思いました。

もう一点は、59ページです。これも最初に申し上げた生物調査の継続的な実施の
ところ、2030年目標の「札幌市内の環境を表す指標種すべての生息・生育が確認されて
いる。」というところ、最初にも言ったように、指標種がどういう環境の指標
となっているのか、どこにどういうふうに分布しているのかも含めて、現状をちゃんと把
握する必要がある、それに基づいてモニタリングをしていくということが理想ではある
ので、そこに近づけるような方向性を書いていただいたほうがいいと思います。

○愛甲部会長 1番目の話は、私も同じように思っていました。

その一方で、認定されたものについては、モニタリングとかガバナンスの点で管理して
いて、おまけに5年置きぐらいにまたチェックが入ることになっていますので、認定され
た時点で、そこはある程度有効な管理をすると保証されていることにはなりますけれど
も、文言としては、そういう場所が認定されるということをきちんと書いておいたほうが誤解
がなく、ただ単に件数が増えればいいという話ではないということが伝わるような文章
にしていただければいいと思いました。

今あった2点目の指標種のところですが、西川委員、どんな表現をすればそれが伝わり
ますか。

○西川委員 難しいですね。

○愛甲部会長 要は、どこでもいればいいというわけではないという話ですね。

○西川委員 そうです。取りあえず三十六種が札幌市内のどこかにいましたと、あまり
意味がないことになります。

あくまでも環境の指標なので、この環境の指標種が見られるので環境が良好に保たれて
いますというものでなければなりません。どの環境にどういう指標種が生育しているの
か、それは一応整理されていると思うのですけれども、札幌市のどこにこういったものが

分布しているかという分布を述べる必要はないのでしょうか。

それに基づいて、幾つかの場所をピックアップしてモニタリングするのが理想だと思いますが、ここにどう書いたらいいか、すぐには思いつきません。

○愛甲部会長 意図は分かりました。ありがとうございます。

例えば、前半のほうで、指標種だったり市民参加型の指標種調査というところの書き方とうまく合わせなければいけないですね。今、ふと思いましたけれども、鳥類で移動するようなものだったら、たまたまそこにいてカウントされたりして、要は、まち中で発見されたものでもいいかという話になってしまうので、それでは指標種としての役割を果たしたことはないのではということがありますよね。

寺島さん、ここは何か工夫できますか。前半のほうで該当するような場所と組み合わせて考えたほうがよさそうですね。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） 指標種を定めたときに、どの場所にいそうな生き物という整理をした中で指標種自体はつくられていると思いますので、そこも含めた感じで、どのように書いたらいいのか、私もまだイメージできていないのですけれども、相談させていただきながら考えてみたいと思います。

○愛甲部会長 これは、10ページ、11ページのところで、例えば、10ページには、札幌市内で見られる生態系（森林、草地、市街地、河川、湿地、田）に生息する代表的な動植物で、その環境の指標となるものを指標種として選定しましたと書いてあって、表の3にそれぞれどういう環境のところの指標種だということが書いてあるので、こことの関係を述べればよいということになりますね。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） そこも含めて、場所も含めてという記載の仕方を工夫します。

○愛甲部会長 お願いします。

そもそも、表3に載っているそれぞれの生態系ごとの組合せが大丈夫かと思いますが、この辺については何かありますか。

○徳田委員 57ページで、餌やりの規制に関するお話が書いてあるのですが、この文章の中で、「餌やりそのものを規制する条例や規則などは定められていません。」という表現が出てくるのですが、これは札幌市が定めていませんという意味で書いてあるのでしょうか。

自然公園法とかでも、自然公園内の話ですが、野生動物に餌を与えることは禁止されている法律があったり、北海道の生物多様性保全条例でヒグマへの餌づけが規制されていたと思うので、このままだと全体でそういう規制がないと捉えられてしまうと思いましたので、「札幌市では」という言葉を入れたほうが良いと思いました。いかがでしょうか。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） そのとおりですので、修正しておきたいと思えます。

○愛甲部会長 ありがとうございます。

自然公園は、確かに言われたように、改正自然公園法で規制されるようになりましたし、生物多様性保全条例は、全道全域を対象にしてヒグマの餌づけが禁止されているということになっているはずなので、それ以外について条例や規則はないという表記になると思います。

ほかにいかがでしょうか。

○有坂委員 今のところで、ないということを書くのではなくて、あるということを書いたほうが良いと思いました。

○愛甲部会長 吉田委員、お願いします。

○吉田委員 また戻って申し訳ないのですけれども、先ほど愛甲部会長がおっしゃっていた表3は、やっぱり気になるのです。

何が言いたいかという、このビジョンができてから、また指標種だったりレッドリストを見直すわけなので、現時点のところで、自分も委員だったからあれですけれども、過去のことは置いておいて、指標種をなくせというわけではなくて、ある程度の組合せは分かりやすくしたほうが良い気がしました。

一番分かりやすいのは、例えば、河川にモクズガニとニホンザリガニと入っていますけれども、これらが重なることはないですね。すなわち、モクズガニは札幌が海とつながっているという指標で、ニホンザリガニは山に近いところから清流のきれいな川が流れてくるという指標です。

そういう指標のために選ばれているものがごっちゃに一つのくくりの河川とか田んぼとになってしまうと、ごっちゃになるから、事務局側でこれが一番分かりやすいというものをしっかり説明されたほうが良いという気がしました。

決して全部無理やりというわけではなくて、何個かそういうものがあつたらいいのではないかなと思いました。

○愛甲部会長 私も実は、生態系と書いてあるものの組合せが二つになっていたり三つになっていたりするごとに入っているのが見にくいなと思いながら見ていました。ただ、これを今から修正するのも大変だろうなと思っていたのですが、今のご提案は、これから幾つか抜き出したほうが良いという意味ですか。

○吉田委員 もともと指標種というのは、どういうところの指標種であるかということで、指標種を選んだときに、山とか川という絵として示していたと思うのですけれども、当然、その組合せがあるから、分かりやすく見せるためにという前回の工夫はそこだったのです。私もメンバーにしながら今さら言うのも何ですが、それが正しかったのかと言われてみたら、違うなという気もしてくるのです。指標種はちゃんと出すべきだと思いますが、組合せは考えたほうが良いかなという気がしました。

河川なら連続性なのか、豊かな湿地を表すとか、田んぼの生態系の表現をしているのかなどピックアップして、それが次の指標種の見直しにつながるような一手を今のうちにかけておいたらいいという気がしています。

過去のことにあまりこだわらずに、だから、全部変えるのは大変だと思うのですが、ある程度、事務局の判断で分かりやすくするという方法がいいのではないかという案です。

○愛甲部会長 ありがとうございます。

どっちにしろ、見にくいので、例えば、指標種を分類群ごとに順番に並べ替えて、それが森林、草地、市街地、河川、田んぼのどこに当てはまるのかというマトリックスにしてしまったほうがよほど見やすいような気がします。その上で、本来、その組合せというか生息場所自体の印のつくところは、今後、再検討もあり得るみたいなこともあると思うのですが、寺島さん、いかがですか。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） マトリックスはすごくいいと思いました。ダブルで表にして、どこにあるという丸をつけていくというイメージだと分かりやすいと思いました。

あとは、もともと指標種を定めたときに生態系の種類として出てきている凡例としては、森林、草地、市街地、河川、湿地、田というふうになっているのですが、それだけだと分かりにくいねというものがあれば、特出しして、別の項目を少し増やして、それを含めたマトリックスにするという方法であればできそうな気もするので、どういう凡例としての生態系をプラスしたらいいのかというご意見をいただけたらありがたいと思っています。

○愛甲部会長 ゾーニングで整理するのは強引でしょうか。

計画のつくりとして分かりやすいのは、物によって分類が変わったりグループが変わったりするとすごく分かりにくいと思うのです。ですから、5ページ以降に書いてある、さっきも湿地を分けたという話がありましたけれども、ここは何となくまだ落ち着いていない感じがしますね。特に湿原はどこに入るのだという話は納得がいていないのですが、そういうところも含めて、ここのグループを使うか、もしくはゾーニングをしているので、ゾーニングごとでもいいと思います。先ほど吉田委員が言われていたような山と水辺のつながり、それから、海とつながっていることを表すというのであれば、ゾーニングの中に出てくるつながりを表す、各ゾーンをつなぐ河川、緑地の中で見られる指標種ということにもなるのです。

どうでしょうか。何かご意見があれば伺いたいです。

西川委員、いかがですか。

○西川委員 うまく表現できるか分からないですが、最初に吉田委員がおっしゃっていたように、河川の指標種といっても、河川のどういう環境の指標なのか種によって違っているというのはとても大事なことだと思うのです。それをすべて河川の指標種ですとまとめてしまうのはとても乱暴な気がします。そうかといって、その一つ一つについてその意味を確認して使い分けるのも大変だろうと思うのですが、そういう意味では、載せているものがちょっと多いのかもしれないですね。

例えば、森林であれば大木がたくさんあるとか、生物の多様性が高いとか、林床がササに覆われていないとか、森林の種類だとか、よりよい森林の環境の条件みたいなものがあるので、それごとに指標種を決める、絞り込むほうがいいのかもしいのかもしれませんが、それをどういうふうに調査に生かしていくのかというと、それはそれで難しいのかもしれない。

表3の表し方だけだと、何の指標としているのかがよく分からないので、もう少し丁寧に詳しく示したほうがいいし、そうするのであれば、もっと絞ったほうがいいという感じはします。

○愛甲部会長 これは、現行のレッドリストに載っているという理解でいいのですか。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） そうです。そのときに指標種をピックアップしていただいたので、そのときの資料が残っていれば、遡って確認したりはできるかと思えます。

○愛甲部会長 例えば、ここでは種を列挙するだけにとどめておいて、レッドリストのほうに、それに対して何らかの記述がされてあるのであれば、そっちを参照ということにしてしまう手もあると思うのです。

さらに、その中で、今、西川委員が言われたように、ほんの幾つかについて、代表的なものを選んで、特徴的なものについて、指標種とはどういうものかということ、コラムが増え過ぎるのもいけないですが、コラムとして書いておくというのもありかと思いました。

○有坂委員 今、愛甲部会長が言ったような指標種の説明が足りないと思います。この中に書かれている札幌市内で見られる生態系に生息する代表的な動植物という表現だと、なにをもって代表的なのか分かりにくいと感じます。生態系として機能している指標である、あるいは豊かさを表す指標であるなど、丁寧な説明をすることで、この種が存在するといいうことが分かればいいのではないのでしょうか。さっきの細かい専門的に近いような話は、別のところで参考資料などで説明して、ここでは、なぜ指標種を出しているのか理由が分かるような説明があるといいのではないかと思いました。

○山崎委員 今、レッドリストを見ているのですけれども、たしか札幌市の指標種をレッドリストで定めたのは、市民の方たちと一緒に調査をしていくという前提の下で選んだ部分もあって、ここに選定の観点が列挙されていまして、その一番最後に、市民に比較的なじみのある種であることとあります。それもあって、種数を多く出していたということもあるのかなと思っています。

指標種というの、一般的な表現としての指標種と、札幌市の指標種と言ったときに意味することと、分かりづらいねということが会議でも議論になった記憶があるのですけれども、今、ほかの委員がおっしゃったように、ここは丁寧な説明が必要かと思いました。

○愛甲部会長 そもそもどういう経緯で選ばれたものかということを書いていただいて、何の指標となるのかということまで書けるかどうかは検討していただくということによ

ろしいでしょうか。

山崎委員、ありがとうございます。

私も、今、改めて見ていましたが、六つぐらい観点があるのですね。

ほかにはいかがでしょうか。

時間が来てしまいましたが、これはかなりボリュームがあります。七十何ページで、読むのも結構大変ですけれども、今日いただいたご意見を入れたり、図を入れたり、コラムにイラストやポンチ絵をつけたりしていると、まだ増えますね。

200ページほどある国家戦略よりはましだと思いますが、今の生物多様性さっぽろビジョンが読み物兼計画書というつくりになっているので、どうしても分厚くなってしまっています。

今日、まだ言い足りなかった点や、読んでいただいて気づかれた点などは、事務局にどんどんフィードバックしていただくと助かります。

今日は、そんな感じでよろしいですか。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） ありがとうございます。

○愛甲部会長 まだ皆さんは全てに目を通しておられない可能性もあるので、そういう対応をさせていただければと思います。

その他ですが、今年度最後の生物多様性部会になりますので、事務局より、皆さんから一言ずつコメントをいただきたいというふうに伺っています。時間もないですので、簡単にコメントをいただければと思います。

山崎委員からお願いしていいですか。

○山崎委員 札幌市博物館活動センターの山崎です。

内部の人間なので、また個別にご相談があると覚悟はしております。今後ともよろしくお願いします。

○愛甲部会長 ありがとうございます。

西川委員、お願いします。

○西川委員 道総研の西川です。

前回関わったときの反省もあって、やり切れなかった部分が大分残されていたかと反省しながら関わっております。

今後とも、よろしく願いいたします。

○愛甲部会長 ありがとうございます。

有賀委員、お願いします。

○有賀委員 札幌市豊平川さけ科学館の有賀です。

私は、今回、初めて関わらせてもらって、知らない部分が多かったので、すごく勉強になりました。自分の専門分野で踏み込めるものももっとあるのかもしれないと思いながら、毎回、準備が足りずにすみません。

もし今後も続くのであれば、今後ともよろしくお願いします。

○愛甲部会長 ありがとうございます。

有坂委員、お願いします。

○有坂委員 この中で、私一人だけが生物多様性の専門家ではないと思いますが、すごく面白かったです。

G7の環境大臣会合が4月15日、16日にあるということで、愛甲先生にも入っているのですが、「G7/アースデイ オープンフォーラム北海道」という生物多様性など環境をテーマに、世界に向けてメッセージをつくろうという会を実施する予定です。そこで出てきたものを札幌市さんにも共有させていただいて、何らかの貢献をさせていただければと思っております。

今後とも、よろしくお願いします。

○愛甲部会長 ありがとうございます。

パブコメはまだですが、市はこういう策定をしていますという情報提供が逆にフォーラムで札幌市からあるとうれしいなと思っています。

徳田委員、お願いいたします。

○徳田委員 私は、専門が狭い人間だったのですけれども、分かる範囲でいろいろこういう会議に参加できて勉強になりましたし、とてもよかったですと思っています。皆さんの専門とか、総合的な考えとか、いろいろ考えることが面白いなと思っています。

ありがとうございました。

○愛甲部会長 吉田委員、お願いします。

○吉田委員 今朝5時から、道東のとある地域で鹿に発信器をつけていました。

全道で仕事をしていたら思うことですが、札幌が動くことを全部が見ていることを非常に強く感じています。事務局の皆様に頑張ってもらっていて、本当にありがたいなにご尽力に感謝いたします。

今後とも、そういう意味でも、札幌が北海道だけではなくて国内の政令都市をリードするのだという強い意識を持って、継続して頑張ってもらいたいと思います。

できることは何でもお手伝いしていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○愛甲部会長 ありがとうございます。

私からも簡単にコメントします。

皆さんにいろいろご協力いただいて、いいものになりつつあると思います。その分、長くなってしまっているということはあると思いますが、読みやすいものになっていると思います。まだまだ作業は続くと思うのですが、引き続きご協力をお願いしたいと思います。

月曜日に国家戦略の会議があつて、審議会で答申がほぼほぼ通つて、多分、今日あたりに審議会長から大臣へ答申があると思うのですが、年内に閣議決定して国家戦略が決まることとなります。

その国家戦略の中でも地域戦略の重要性は非常に強く述べられていて、なかなか策定数

が伸びていないという状況もあるのです。吉田委員がおっしゃったように、北海道では札幌が地域戦略をつくって引っ張っていく立場というのがあると思いますし、特に石狩地方周辺のつながっている地域との連携もあると思いますので、引き続きやっていただいて、G7の環境大臣会合でもその辺を上手いことPRしていただければいいのではないかと考えております。

引き続き、よろしくお願いいたします。

それでは、今後のスケジュール等について事務局より連絡事項がありますので、よろしくお願いいたします。

○事務局（濱田環境共生担当課長） 皆さん、大変お疲れさまでした。

たくさんのご意見をいただきまして、ありがとうございました。

時間も限られていましたので、ご発言し切れなかったこともあると思います。また、まだまだご意見が尽きないと思いますので、前回同様、別途、事務局からメールをいたしますので、骨格案の修正点などについてご意見をいただけますようお願いいたします。

今回、会議でいただいたご意見と後ほどいただくメールでのご意見を併せて整理しまして、生物多様性さっぽろビジョンの骨格案にさらに修正を加えまして、素案の作成を進めていきたいと思っております。

次に、スケジュールについて簡単に説明いたします。

○事務局（寺島生物多様性担当係長） 画面共有をさせていただきます。

今、第6回部会まで来ておりまして、今年度はこれで終了ですけれども、まだ煮詰め切れていないところがあると思いますので、次年度に第7回を開催させていただいて、これからいただくメールでのご意見、今回いただいた結果を踏まえたものを修正していったら、ある程度、素案を完成させていきたいと思っています。

その後、環境審議会にかけさせていただいて、その後、ちょっとずれてしまいましたけれども、庁内会議等で調整を図りました上で、再度、修正したものを環境審議会にかけさせていただいて、議会説明を経てパブリックコメントに移っていくという来年度のスケジュールになっておりまして、最終的に3月までには策定にこぎつけたいと考えておりますので、引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

説明は以上でございます。

○事務局（濱田環境共生担当課長） 事務局からは以上です。

○愛甲部会長 先ほど皆さんからコメントもいただいたので、これで終わりかと思われた方もいらっしゃるかもしれませんが、最終案の確認のためにもう一回部会をやるということですので、来年度も引き続きよろしくお願いいたします。

3. 閉 会

○愛甲部会長 それでは、以上をもちまして、第12次札幌市環境審議会生物多様性部会第6回会議を終了いたします。

ありがとうございました。

以 上